

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 ビジターセンター管理員レポート
- 06 現地情報（番外編）①
 ブログで振り返る令和元年シーズン
- 08 令和2年シーズンの尾瀬についてのお知らせ
- 09 尾瀬ボランティア情報
- 10 現地情報（番外編）②
 「第一回冬期調査」
 トピックス
- 12 令和元年（平成31年）度尾瀬保護財団の主な活動
- 13 尾瀬のミニ観察《総集編》⑥
- 14 尾瀬保護財団からのお知らせ



2020.3 vol.42
(公財)尾瀬保護財団



「春まだ浅き尾瀬」（第24回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト風景の部 金賞作品）撮影：平居久美子さん

ビジターセンター管理員レポート①

春、日本は令和の新時代を迎えた祝賀ムードの只中にありましたが、どういう巡り合わせか、ちょうどこの時代と時代の節目から新たな仕事を始められるとあって、5月の連休明けに管理員として山の鼻ビジターセンターへ着任いたしました。山歩きが趣味とはいえ、山での長期にわたる生活は自身にと

って経験がなく、しかしどちらかといえば不安に期待が勝ったやや興奮気味の心持ちで、鳩待峠から川上川に沿った雪の冬道を歩いたことを、まるで昨日のことのように思い出します。

4月に幾度かの名残り雪があり、5月、着任当初の尾瀬ヶ原は一面の銀世界でした。開所作業と研修の日々の中で、正面玄関の階段に積もった雪が、見る見るう

ちに解けて消えてゆく速さに驚きました。雪解け水を合わせた川上川や猫又川は度々氾濫し、水が溢れた上田代などは新たな湖面が出現したかのようでしたが、流れの中を覗き込めばそこかしこにミズバショウの白い苞が見え、雪の下に成長を続けてきた生命力の強さを感じました。

6月、すっかり雪も解け、地肌が顕わになった尾瀬ヶ原では多くの草花が生育します。湿原は徐々に枯れ草色から緑色へと変わっていき、その中には赤や白や青や黄色、色とりどりの花が点々と咲き零れています。また森へ分け入って空を仰ぎ見れば、新緑を透かして林床まで届く木漏れ日がいへん美しい季節でもあり、自然の見せる彩りの鮮やかさにあらためて驚かされました。そして野生の熊をはじめで間近に見たのもやはりこの6月でした。

今年は長梅雨となり、7月是最後まで雨が続きました。7月には至仏山への登山が解禁となりますが、休みと晴れ間とがなかなか合わず、やきもきしたことを覚えています。尾瀬ヶ原は相も変わらず、否、前にも増して百花繚乱の様相で、多くの虫たちも短い夏を謳歌するかのごとく飛び回っていました。トンボが飛び始めると、それ



まで悩まされていたヌカカによる虫刺されもびたりとなくなり、トンボに対して感謝の念を抱いたことさえありました。

8月に入ると、心なしか湿原が黄色く色づいてきたように見え、たいへん驚きました。里ではまだまだ夏の盛りだというのに、尾瀬ヶ原では早くも秋の気配が漂い始めました。ミズバショウの実が熟すと、尾瀬ヶ原での熊の出没は毎日のようになり、研究見本園は一部を通行止めにしてざるを得ないほどでした。ビジターセンターの職員は、熊の目撃情報が入る度、山の川上川橋と原の川上川橋を行ったり来たりの日でしたが、今となっては良い思い出です。

9月、草紅葉は一層深みを増し、樹木の中にも紅葉を見せるものが出てきます。ビジターセンターにストーブが登場する頃には、傍らに人無きが若しであった熊もぱったりとなりを潜め、月末には初霜が降りました。

10月には樹木の紅葉が見頃を迎えるはずですが、相次ぐ台風の襲来に閑散とした尾瀬が続きます。日本各地で水害や土砂災害が多発した秋となりましたが、尾瀬の被害に致命的なものはなく、最小限に留まったと考えられます。とは言え、通行できない登山道や運行できない交通機関も複数あり、しばらくは情報収集と発信に奔走する日々がありました。気がつけば現在は、閉所作業の合間にこの筆を執っている次第です。

こうしてシーズンを通して尾瀬での生活、業務を振り返って



みると、自然に驚かされ続けた半年間であったと思います。わずか半年の間に春、夏、秋がきちんと巡る速さ。過酷な環境下にいつそう冴える草花の彩り、動物の逞しさ。そういったものを目の当たりにすると、自然保護などという考えはずいぶん尊大な人間のエゴに過ぎず、人間が急激な変化を加えさえないければ、あるいは無理に形を留めようとさえしなければ、自然は律動を繰り返しながら、しかし緩やかに変化していくものであったという認識を新たにします。ですから利用を前提とした尾瀬の保護に携わろうとする者は、利便性と環境負荷との間で最適解を模索し続けなければなりません。

尾瀬のシーズンを終えるに当たり、公益財団法人尾瀬保護財団並びに両ビジターセンターの活動にご理解、ご協力を賜りました関係者の皆様方、尾瀬を愛する利用者の皆様方に感謝の気持ちを表したいと思います。

(榎本 隆史 令和元年度 山の鼻ビジターセンター管理員)



ビジターセンター管理員レポート②

今、尾瀬では草紅葉が黄金色に染まる季節を迎えています。

「歳月人を待たず」とはよく言ったもので山の鼻ビジターセンターに着任したのが、つい先日のように感じます。着任後すぐに雪解けと共にミズバショウが咲き、キクザキイチゲ、リュウキンカ、タテヤマリンドウ、夏にもなるとレンゲツツジ、ヒツジグサ、オゼコウホネ、ニッコウキスゲ、キンコウカと花々が咲き巡り、そして、今では秋を迎えエゾリンドウが咲き尾瀬の花の季節の終わりを告げております。

駆け抜けた半年間でしたが、どの季節にも沢山の見所がありました。ビジターセンターでシーズンを通して働いた私の季節のオススメの見所を今年のシーズンを振り返りながら書き記してみたいと思います。

「春は水面」

今年は例年通りの積雪があり、上山した時も1〜2mほどの雪が積もっております。尾瀬ヶ原を歩く時も木道がまだ出ておらず、一面が凸凹した白い雪原となっていました。暖かくなると雪は瞬く間に解け、待っていたかの様に沢



▲ 春の尾瀬ヶ原湖の景色

山の花々が咲き始めました。尾瀬を代表するミズバショウが咲くと、花咲く春を喜ぶ人々が行き交い、尾瀬は賑わいの季節へと変わります。

この季節ならではのオススメのスポットは「尾瀬ヶ原湖」です。尾瀬ヶ原に湖など無いと思われるかと思いますが、しっかりとした積雪のあった年では雪解け水が多くなり、尾瀬ヶ原は水で溢れます。上田代の第一ベンチの先には一面に水が張り湖と化します。風の無いときには水面に逆さに映る至仏山や燧ヶ岳を見る事が出来ます。特に朝や夕方の紅く染まる山や雲を湖面に映す様は、ミズバショウの景色と共に尾瀬の春ならではの景色となります。

「夏は山上」

ミズバショウの白い仏炎苞が外れ、光合成をする為に葉が大きくなると、すっかり雪は無くなり緑あふれる季節へととなります。その緑は様々な色の花で賑わい、人々を楽しませてくれます。今年は長梅雨



▲ 夏の至仏山山上からの景色



▲ 今年の大江湿原ニッコウキスゲの様子

で天気自体は良くなかったですが、7月半ばになるとニッコウキスゲが咲き、大江湿原では見事な黄色い絨毯を見る事が出来ました。

夏のオスメスポットは毎年7月1日に登山規制が解除される至仏山です。特に山ノ鼻から登る東面登山道は、森林限界を越えると尾瀬ヶ原を一望しながら登れる展望の良い登山道で、朝早く登ると朝靄で雲海となっている尾瀬ヶ原を見下ろす事が出来ます。そこに昇ってきた太陽の光が差し込んでくると、雲と光のアンサンブルを山上から楽しむ事が出来ます。南北約6km、東西約2kmの本州最大の湿原の景色を山の上から楽しめるのは、尾瀬を代表する山「至仏山」だからこそこの絶景となつております。

また、燧ヶ岳の御池からの登山道上にある広沢田代と熊沢田代もワタスゲの群生が見事な年があるのでオスメです。

「秋は朝霜」

お盆の時期を過ぎると尾瀬は一気に秋へと向かいます。暑さも峠を越え、咲く花もキノコウカ、サワギキョウ、アキノキリンソウと花のリレーは続き、オクトリカブト、そしてエゾリンドウが咲く頃には尾瀬ヶ原は草紅葉で染まり秋が始まります。更にはヤマドリゼンマイの紅葉も見頃となり、最後に周りの広葉樹などの木々も紅葉していきます。尾瀬の紅葉は段階を経て、見所を変えながら深まってきました。

秋のオスメスポットは、



▲ 秋の紅い葉に降りる霜

秋の深くなつた時期の早朝に木道や植物などに降りる「霜」です。夜が晴れた日に放射冷却によって気温が下がると霜が降り、紅かつた景色は一変、白い景色になります。木道は白銀の道となり、黄色や赤く染まっていた植物の葉や実も白くなり、尾瀬ヶ原に根を張るシラカバも幹を更に白くし、存在感を増します。そこへ朝日が射すと霜がキラキラと輝き、尾瀬ヶ原全体は宝石を散りばめたような絶景となります。

二つの季節の尾瀬のオスメの景色を記してきましたが、どの季節でも「早朝」がオスメになっております。尾瀬で一泊しながらゆっくり絶景を楽しむのが良いですよ！

もつと尾瀬ヶ原は長い冬を迎えます。尾瀬の冬は3mを超す積雪と寒風吹きすさぶ極寒の地となり、交通手段も無くなる為、容易に人が近づくことの出来ない場所となります。そんな環境だからこそ、厳しい冬を乗り切り、春に元気に咲くミスバシヨウなどの花々が美しく見えるのかもしれない。

また来年も花々咲き乱れ、命溢れる尾瀬を楽しむに待ちたいと思います。皆さんも自分だけの絶景を探しに尾瀬へと足を伸ばしてみてください。

(坂上 修司 令和元年度 山の鼻ビジターセンター管理員)



▲ 夏の山上からの景色、染まる霧の尾瀬ヶ原

番外編

1

ブログで振り返る 令和元年シーズン

早いもので、令和2年シーズンもすぐそこまでやってきました。次のシーズンはどんな尾瀬を見ることが出来るのか、ワクワクしている方も多いのではないのでしょうか。

新しいシーズンを迎える前に、昨シーズンを振り返り「へえ〜そうだったんだ」「懐かしい」などと思っていただけなら嬉しいですね。

5月14日

今シーズンもよろしくお願ひします

山の鼻ビジターセンターより

本格的に尾瀬のシーズンをスタートするの期前にして、本日、山の鼻ビジターセンターの開所式を迎えました。昨年は少雪により残雪のない開所式でしたが、今年は残雪の上での開催となりました。尾瀬ボランティアの方による草笛とハーモニカ演奏が披露され、それに合わせて参加者が皆で合唱するなど、和やかな雰囲気の中で開所式となりました。



5月18日(本日開所です)

尾瀬沼ビジターセンターより

本日、尾瀬沼ビジターセンターが開所となりました。そして、御池では自然にやさしい電気バスの出発セレモニーがありました。沼山峠から尾瀬沼までは、まだ残雪が多



く、木道もほとんど出ていませんので、踏み抜き等に十分注意してください。

6月1日(今シーズン一番のこまわり)

山の鼻ビジターセンターより

本日の尾瀬ヶ原はお天気も良く、今シーズン一番の賑わいとなりました。山ノ鼻地区も大勢のお客様ににぎわい、尾瀬のシーズンが本格的に始まったのだな、と思わせる雰囲気です。



6月8日(シカ柵設置の様子)

尾瀬沼ビジターセンターより

くもり時々雨という天気の中、大江湿原の植生を守るため、今年もシカ柵設置作業が行われました。林野庁を中心に尾瀬関係者、環境省の保護官、企業ボランティア、尾瀬ボランティアなど多くの方が参加されました。参加された皆さんのご協力に深く感謝します。大江湿原のニッコウキスゲも回復してきましたと言われています。今年もニッコウキスゲがたくさん咲くことを願っています。



6月29日(60年に一度の花)

山の鼻ビジターセンターより

今日は長沢新道からアヤメ平巡回をしてきました。実はここには「笹の花」になります。笹の花を咲かすのは60〜120年ごとの周期があるとされており、まもなく貴重な幻の花と呼ばれるようになります。しかし、笹は一度花を咲かせると枯れてしまつてい



6月30日(小沢平外来種駆除作業)

尾瀬沼ビジターセンターより

私たちビジターセンター職員は、小沢平にて外来種であるオオハングソウの駆除作業に参加してきました。オオハングソウは北アメリカ原産の多年生植物。明治時代中期に観賞用に導入された黄色い花です。在来の種を押し付け繁殖している特定外来生物に指定された植物です。たくさんのボランティアの方々のおかげで、環境省や林野庁、福島県、檜枝岐村など多くの関係者の方々の力添えもあって、今回の駆除作業は無事に終わりました。



7月4日(幻の滝)

山の鼻ビジターセンターより

今朝、尾瀬ヶ原ではかなりの雨が降りました。ビジターセンターの屋根を打つ雨音が目が覚めたほどです。研究員本園には「ゴォー」という音が響いていて、ふと至仏山を見てみると、「幻の滝ができていました」



7月22日(ナイトハイク)

尾瀬沼ビジターセンターより

昼は登山や散策をする方が多い尾瀬ですが、20日の夜、山小屋に宿泊している皆様を対象にナイトハイクと星空観察会を行いました。夕闇せまる尾瀬沼ビジターセンターを出発し、浅湖(あざみ)湿原まで行ってきました。浅湖湿原では、懐中電灯を使い周囲に動物がいなく皆様が観察しました。いくつか森の中で光る眼がありました。ニホンジカがもしれません。みなさん、普段経験することの



できない暗い湿原や森の散策を体験し、何の動物か確認はできませんでしたが、光る眼も見ることで満足していただけたようです。

7月25日

(大江湿原のニッコウキスゲ最盛期到来)

尾瀬沼ビジターセンターより

久方ぶりの青空に燧ヶ岳がどっしりとそびえ立ち、爽やかな夏の風景が広がっています。大江湿原のニッコウキスゲがいよいよ最盛期を迎えております。一昨年もおたくさん咲きました。それよりもっと多く広範囲で咲いています。時折吹く夏風に揺れるその姿はまるで「黄金の海」のようです。



7月26日(早朝の尾瀬を楽しむ)

山の鼻ビジターセンターより

今日の尾瀬は晴れていたかと思えば雨が降つたりと、少し不安定なお天気となりました。が、早朝は、朝霧に斜光が射して、幻想的な尾瀬の景色を楽しむことができました。日帰りで尾瀬の朝夕の景色を楽しむことは出来ないため、是非天気の良い日を狙って尾瀬に泊まって、この景色を見て頂きたいと思



7月27日(星空観察会)

尾瀬沼ビジターセンターより

今日は台風を前に思いがけない晴れ間が見えています。昨日はすつと曇りで、星空が見られるか不安の中での観察会でしたが、奇跡的に春の大曲線、夏



の大三角形、サソリ座や惑星では木星、土星を見る事ができました。
尾瀬沼にご宿泊のお客様にオススメです。夏休み中も何度が観覧会を予定しておりますので、是非機会があればご参加ください。

・8月12日
夏のイベントと大江湿原の様子

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

大江湿原ですすっか秋の風景に変わっております。尾瀬沼ビジターセンター主催の夏限定イベント「夏の手ぬぐいワークショップ」は好評で、多くの皆様に参加していただき、素敵な作品がたくさん出来上がりました。こちらのイベントは本日がいよいよ最終日となります。尾瀬沼ビジターセンターではまだまだ、様々な夏のイベントをご用意しております。ぜひ、尾瀬沼を訪れた際にはお立ち寄りください。

皆様の尾瀬へのお越しをお待ちしております。

・8月13日(八木沢道から天上の楽園へ)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

本日は、見晴から八木沢道を通りアヤマ平へ巡回しました。八木沢道は見晴からフナ林などを通り緩やかに富士見峠へと登る登山道です。楽しい登山道でしたが、クマがいかに出そうな所ですのでクマ鈴を常に鳴らし、定期的に笛を鳴らして通過し登り切ると、アヤマ平は天上の楽園そのものでした。



・8月29日(木道補修ミツシユの尾瀬ヶ原)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

本日は尾瀬ヶ原巡回へ行ってきました。現在

尾瀬ヶ原では木道工事ラッシュです。
いたる所で木道を取り換える工事を行っています。足場の悪い中、道具も限られた山の中で作業をされている方々に本当に感謝です。

・9月12日(山の大切な日)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

本日は秋晴れ、尾瀬ヶ原を吹き渡る風もだいぶ秋らしくなり、大切な行事が行われました。なにご大切なのかと云えば、「十二山神様の日」だからです。他の山でも「山の神様」を祀り様々な行事を行うところがあります。本日9月12日が山の神様のお祭りを行う日となっております。



・9月23日(湿原に流れる静かな時間)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

今朝は台風の影響もあってか、いつもより風が強く、色づき始めた大江湿原を波打つように風が流れていきました。連休の最終日、昨日までの賑わいに比べ静かな時間が流れる尾瀬沼周辺です。9月22日(日)19時から尾瀬沼ビジターセンターにて、歩荷の渡部努さんを講師に迎え、荷さんの貴重な体験談や生業としての知られざる側面など、多くの参加者とともに楽しい時間を過ごしました。



・9月24日(狂い咲き)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

今日は、植物研究見本園でなんと「リュウキ



ンカ」の花が咲いています。通常であれば雪解けの時期に水芭蕉とともに見られる花ですが、ずいぶん季節外れの狂い咲きです。日に日に草紅葉の進行している尾瀬ヶ原ですが、リュウキカはともかくとして、ウメバチソウなど秋の花々もまだしばらく楽しめます。

・10月5日(ありがたの尾瀬)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

温帯低気圧が接近した昨晩から尾瀬ヶ原では風雨が強まり、今朝まで強風が残りまじりました。この活動は尾瀬の素晴らしい自然に感謝するとともに、来シーズンも綺麗な尾瀬であるようにと、毎年シーズン終盤に実施されます。本日は、19名のボランティアの方々とともに、山ノ鼻から牛首分岐までの区間でゴミ拾いを実施いたしました。



・10月6日(秋の紅葉ウォーキング)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

今日は昨日おこなわれた紅葉ウォーキングの様子をお伝えします。昨日の参加者は4名様。和やかな雰囲気の中いろいろな質問が出て、三平下までの往復ウォーキングを行いました。実際の葉っぱや木を見てみたり、ときには資料を使って紅葉のメカニズムを紐解いたり。木々の紅葉の盛りにはまだ少し早ですが、充実した時間を過ごして頂けたようです。今日も紅葉ウォーキング2日目が開催されます。また夜には



星空観覧会もありますので、たくさんの方々に秋の尾瀬沼を楽しんで頂けたらと思います。

・10月13日
(台風19号通過後の尾瀬ヶ原の様子)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

昨晩の尾瀬は台風19号の影響で強い風雨があり、今朝は弱まったとはいえ風雨が残る中、山ノ鼻地区から鳩待峠方面、尾瀬ヶ原方面の巡視に手分けして行きました。川上川や猫又川は氾濫で橋付近は一部冠水が見られました。尾瀬では大雨が降ると河川付近の木道が冠水し、通行が危険と思われるときは通行止めになる場合がありますので、情報を確認の上お越しください。



ブログを見ていただいた皆様、ビジターセンターに立ち寄っていただいた皆様、半年間ありがとうございました。また尾瀬でお会いするのを楽しみにしております。

山の鼻ビジターセンター・尾瀬沼ビジターセンター 職員一同



10月31日
(令和元年シーズン終了)
〜尾瀬沼ビジターセンター〜



10月27日
(令和元年シーズン終了)
〜山の鼻ビジターセンター〜



令和2年シーズンの

尾瀬についての

お知らせ

道路開通・交通規制

①群馬県側の道路開通予定が以下のとおり公表されています。

大清水…4月17日(金) 午前10時

鳩待峠…4月24日(金) 午前10時

②鳩待峠・沼山峠で交通規制が実施されます。

鳩待峠では116日間マイカー及び二輪車(オートバイなど)の規制が行われます。沼山峠ではシーズンを通して全車両(ただし、許可車及びシャトルバス等を除く)が規制されます(詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください)。

尾瀬山開き

開催日…5月21日(木)

開催場所…群馬県片品村

※当日は山開きのセレモニーが行われますが、尾瀬への入山は周辺道路の冬期閉鎖が解除される4月下旬頃から可能です。春先は豊富に残雪が残りますので、十分な装備を整えて入山してください。

至仏山

植生保護の観点より、例年実施している残雪期の登山道閉鎖については、次のとおりです。

〈登山道閉鎖期間〉

5月7日(木)～6月30日(火)

※雪の状況に応じて、期間が変更になる場合があります。

その他にも、様々なルールがありますので、注意して利用してください(詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください)。

ビジターセンター開所

○尾瀬山の鼻ビジターセンター

5月中旬【予定】

○尾瀬沼ビジターセンター

5月16日(土)【予定】

★財団ホームページ★

令和2年3月、トップ画面を新しくしました!今後、各ページの見直しを進め、より分かりやすいホームページを目指していきます。

1 尾瀬だより

尾瀬山の鼻ビジターセンターと尾瀬沼ビジターセンターの現地最新情報が一目で分かるような作りとしました。現地職員が尾瀬の様子を毎日お届けしておりますので、

尾瀬に行く際にぜひ活用ください。

2 ライブカメラ

尾瀬の今の様子をライブカメラで見ることができます。尾瀬保護財団ホームページの下部にリンクがありますので、ぜひご覧ください。

★尾瀬ハイキングガイド★

この度、新たに登山道の難易度分けを行いました。これまでは全登山道が同じ色であったため、本来は難易度の高い登山道を優しい登山道と勘違いされる方がいたということでした。自身のレベルに合った登山道選びにご活用ください。また、外国語版では英語版・中国語版の更新を行いました。尾瀬保護財団のホームページからダウンロードできます。

尾瀬認定ガイド

○ガイド依頼の際は、尾瀬認定ガイドをご活用ください。

尾瀬の魅力、貴重さ、保護活動の状況等を丁寧に伝え、安全や行程管理を行う尾瀬認定ガイドを、環境教育やエコツアーのガイドに是非ご活用ください。

「問い合わせ先」

尾瀬ガイド協会事務局

027・220・4431(尾瀬保護財団内)

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介します。

NHK「わたしの尾瀬」写真展(高崎展・前橋展)の運営にご協力いただきました。

今年で24回目の開催となるNHK「わたしの尾瀬」写真展。今年も高崎展・前橋展の開催にあたり、設営から運営補助、作品解説、撤去作業まで延べ86名の尾瀬ボランティアの皆さんにご協力いただきました。ボランティアの皆さんの尾瀬愛あふれる解説を聞きながら作品を見ると、その美しさだけではなく、いつ、どんな場所から、どんな苦労があつてこの写真が撮影されたのか、その背景も知ることができ、より深く作品を楽しむことができます。そのような興味深いお話を聞きながら、担当も翌シーズンほどの季節にどの場所を訪れようかと思いを巡らせ、春の訪れが待ち遠しくなりました。



▲ 高崎展でのボランティア活動の様子

尾瀬ボランティアの皆さん、令和元年度もありがとうございました！

尾瀬ボランティアの皆さん一人ひとりのご協力のおかげで、令和元年度も尾瀬保護財団の事業を無事に終えることができました。本誌記事ではご紹介できませんでしたが、今年度は自主ボランティア活動による清掃活動は昨年度を上回る81件、そのほか自然解説活動の環境学習ミニガイドツアーやお話ボランティアでも多くの方に熱心に活動していただき、尾瀬ボランティア活動を盛り上げていただきました。令和2年度シーズンもまもなくやってきます！次の一年もご協力どうぞよろしくお願いします！



▲ お話ボランティア活動中の一枚(尾瀬沼)

尾瀬ボランティアを募集しています

財団では、尾瀬の貴重な自然を国民の宝として大切に保護し、将来へと引き継いでいくために、尾瀬地区の利用者に対する普及啓発活動、環境美化活動、施設の管理運営の支援等を行う「尾瀬ボランティア」の登録希望者募集しています。

(1) 受付期間 **随時受け付けています。**

(2) 応募にあたっての**ご注意** ～研修・登録が必要です～

活動を始める前に、尾瀬ボランティアへの登録を行います。登録のためには、通常4月から開始する通信研修と6～7月頃に行う現地研修の両方を修了する必要があります。登録を希望する場合は、所定の応募用紙を下記までご提出ください。

【問い合わせ先】公益財団法人尾瀬保護財団 企画課(尾瀬ボランティア担当)

◎ TEL 027-220-4431 ◎ FAX 027-220-4421

現地情報 【番外編】② 「第一回冬期調査」

皆様こんにちは！毎年恒例の第一回冬期調査を実施いたしましたので、その様子をお伝えしたいと思います。この調査は、半年間の長い厳冬期を迎え積雪の多い尾瀬であり冬期間に2回特別な許可を得て入山し建物や橋梁などの異常がないか点検を実施するものです。

今回の調査は11月21日～22日の一泊二日の行程で実施しましたが、下山時(11/2)には積雪はゼロでしたが調査前々日に積雪があり心配しながらの調査となりました。

1日目は片品村戸倉の県道尾瀬ヶ原土出線ゲートから自動車で鳩待峠に向かいましたが、道路には数日前の降雪により20～30cm程度積雪があり心配しながらの出発となりました。鳩待峠駐車場で積雪30cm程度、身支度を整え山ノ鼻へ向け出発しました。木道には積雪があり、シーズンを終えた尾瀬では動物たちが入山者に代わって木道を利用してらしく無数の足跡が見られました。

山の鼻ビジターセンターに到着後、ビジターセンターの建物・設備点検を済ませ、竜宮公衆トイレの点検に向かいました。木道には積雪がありましたが、橋桁には風の影響で積雪は無く落ちないよう注意し、誰もいない尾瀬ヶ原を満喫しながらの移動となりました。竜宮での点検作業も無事に終了し山の鼻ビジターセンターに戻りました。

冬期閉鎖後の山の鼻ビジターセンターでは、電気・水道・ガスは利用できませんが、お風呂は配管等が凍結してしまつので、利用できません。持参した食材で夕食を済ませ各自床に就きました。

2日目の朝はマイナス10℃と冷え込みも厳しく、山ノ鼻地区にある県有施設及び山の鼻地区共有の水源地点検を実施したのち、ビジターセンター内の最終点検を行い鳩待峠に向けて出発しました。

鳩待峠では県有設備(案内看板・ボランティアハウス)の点検を実施し無事に第一回冬期調査を終了することが出来ました。次回の調査は3月中旬に一週間程度で行う予定です。



▲ 下ノ大堀川橋



▲ 尾瀬ヶ原と至仏山



▲ 動物足跡

トピックス TOPICS

○第24回NHK「わたしの尾瀬」写真展(高崎展・前橋展)を開催しました。

(今後、新潟・福島を巡回予定)

長年多くの尾瀬ハイカーと尾瀬を愛するアマチュアカメラマンに親しまれ、今回で24回目の開催となったNHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト。「風景」、「動物」、「人」、「保護」の4部門へ、今年全国20都県の186名の方から合計618点の応募があり、50点の入選作品が選ばれました。

尾瀬の自然は、例えば雪の量や晴天日の数、動物たちの動きなど、その年の気候や環境によって表情を変え、花の咲き方や時期、秋の葉の色づき方も毎年微妙に異なります。このフォトコンテストの応募作品には、その年ごとの尾瀬の個性が反映され、それが見る者を飽きさせない一つの魅力になっています。

今シーズンは、入山者の多い週末に悪天候の日が多く、ハイカーにとってもカメラマンにとっても晴れの天気になかなか巡り会えない、もどかしさの残るシーズンであったかもしれませんが、しかし、入賞作品の中にはそんな今年の尾瀬を象徴する、「雨の尾瀬」を写した作品もあり、それは改めて「雨の尾瀬」の美しさに気づかせてくれる一枚でした。そのほか、一面ニッコウキスゲや、今年目撃情報の多かったオコジョがかわいらしく佇む姿など、今シーズンのハイライトを写す作品が多数寄せられました。令和元年12月13日(金)には高崎シティギャラリーにて表彰式・交流会が行われ、入選者の方々が遠方からも多数参加され、盛大に執り行われました。

今回の風景の部の金賞は、横浜市在住の平尾久美子さん撮影の「春まだ浅き尾瀬(本号表紙)で、燧ヶ岳から尾瀬ヶ原と至仏山を臨み、5月早春の尾瀬を写した一枚です。至仏山に多く残る雪渓が、残雪の多かった今年のシーズンの始まりを思い出させてくれます。

表彰式終了後、会場では審査員である写真家新井幸人氏と今井隆一氏により、入賞作品解説が行われました。審査員が入賞者一人一人の作品を丁寧に講評すると、入賞者の方々は熱心にそのアドバイスに聞き、その表情からは「翌シーズンこそはさらに上位の賞を狙うぞ!」と意気込みが感じられました。尾瀬沼ビジターセンター駐在職員による尾瀬リポートも開催され、今シーズンを振り返りました。



▲ 表彰式の様子

また、交流会では入賞者の方々が自らの作品の解説を行い、それぞれの写真に込めた情熱やエピソードを語ってくださいました。常連入賞者のお一人は、「毎年このフォトコンテストに入賞して、この交流会の場で審査員の先生や他の入賞者の皆さんとお会いすることが何よりも楽しみ」と当フォトコンテストへ熱い思いを語ってくださいました。

写真展は、高崎展は高崎シティギャラリーにて令和元年12月13日(金)～18日(水)の6日間、前橋展は群馬県庁1階県民ホールにて令和2年1月23日(木)～29日(水)の7日間開催しました。会場には、大きな美しい写真パネルへ引き延ばした入賞作品50点の他、尾瀬保護財団の活動を紹介するパネル、片品村俳句大会の入選作品、檜枝岐村の尾瀬書道展の入選作品などが展示されました。毎年この写真展の開催を楽しみにしているという常連の来場者の方もいれば、今回この写真展で尾瀬の景色を初めて見て、尾瀬に行きたくなったという若者の声もありました。

また、高崎展では今回初めてNHKBS8Kの番組「尾瀬 知られざる水の世界」(NHK前橋放送局制作)を特別上映し、来場者の皆さんは画面に映るあまりに美しい尾瀬の景色に、時間を忘れて見入っていました。



▲ 交流会の様子

今後の写真展の巡回予定につきましては、日程・会場が決定次第、当財団ホームページならびにNHK前橋放送局ホームページにてご案内いたします。是非会場にご来場いただきたいと思っております。

○令和元年度の啓発PR活動について

先日、令和元年度シーズンズの尾瀬国立公園入山者数が25万人弱であったとの発表がありました。天候の影響も少なからずあったようですが、年々尾瀬を訪れる方の数は減ってきていることが窺えます。入山者の減少は、環境負荷を考えれば歓迎すべきことかも知れませんが、時期・入山口の集中は解消されていません。また、その一方で尾瀬の環境保全は、山小屋の方や地元の皆様御協力なくしては成立しませんので、地元経済の活性化は不可欠な要素です。そこで当財団では、ルールやマナーを学んだ上で、より多くの方に尾瀬の自然の美しさを楽しんでいただき、その希少性を御理解いただくため、啓発PR活動を行っています。

さて、この活動の一環として、観光イベント等に出席しているのですが、今年度は世界最大級の観光イベント「ツリスムEXPO JAPAN 2019」に参加し、大阪上陸を果たしましたので、その様子を御紹介いたします。

列車を乗り継いで会場のインテックス大阪に降り立ったのは10月24日。北関東三県ブースの一角を間借りしてこれから4日間。片品・檜枝岐・魚沼の観光協会に御恵与いただいたパンフレットで城を築き、ノベルティグッズは飛び道具。懐刀に「NHKわたしの尾瀬写真展」の傑作選を入れたiPadを携えて、いざ大阪秋の陣。ここは大阪、完全アウェイ。15万人超の来場者に立ち向かう職員2名の運命やいかに！

ところがそんな心配はどこ吹く風。関西の来場者の皆様は、軽妙な距離感で耳を貸してくれただに、担当のつまらない冗談も拾ってもらい、しっかりとツッコミをいただきました。ついには「夏の思い出」を口ずさみながら、話しかけてくるおじさまも出現！若干、草津や上高地との混同は見られたものの、改めて尾



瀬の知名度に驚かされました。そして皆様が行ったよ、二度は行ってみたい」との声、是非一度と言わず二度三度とお勧めした次第です。

一方、若い世代の方や、海外の方の反応はというと、そこは尾瀬の絶景写真が雄弁に魅力を語ってくれていました。担当の残念な英語力を十二分にカバーし、「fantastic」のお言葉を頂戴しています。

気がつけば4日間で約400部の資料を配付し、多くの御来場者とお話することができました。当財団からは尾瀬の絶景や魅力の紹介に加え、主に次の4点を訴求しています。

- ① 宿泊利用のススメ
- ② 平日利用のススメ
- ③ 入山時期の分散
- ④ 利用入山口の分散

今回、イベント出張を通じて実感したことは、やはり多くの方の記憶に、それぞれの「尾瀬」が存在しているということ。今後、新しいファンを増やしつつ、この希有な自然を引き継いでいくためのエネルギーを獲得すべく、引き続き、啓発PR事業に取り組んでいきます。



○令和元年（平成31年）度

尾瀬保護財団の主な活動

4月12日	至仏山残雪期調査実施	7月3日	作業実施（小沢平）	20日	ありがとう尾瀬巡回清掃活動実施（尾瀬ヶ原）
20・21日	春の上州ごっこ楽市（高崎市）に出展	7日	尾瀬総合学術調査推進協議会総会開催 あんなかエコーばんぱく（安中市）に出展	21日	第2回尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会に出席
23日	尾瀬ガイド協会認定審査委員会・理事会開催	9日	福島県尾瀬地区植生復元調査実施	24日	至仏山東面登山道整備（柵倒し）実施
5月14日	山の鼻ビジターセンター開所	16日	山ノ鼻地区ツキノワグマ対策連絡会議開催	24日	ツリーズムEXPOジャパン2019（大阪市）に出展
14日	全国宣伝販売促進会議（前橋市）に出展	8月11日	山の日「21世紀の森まつり」（沼田市）に出展	27日	山の鼻ビジターセンター閉所
15日	尾瀬賞検討委員会開催	13日	第1回尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会に出席	31日	尾瀬沼ビジターセンター閉所
18日	尾瀬沼ビジターセンター開所	20・21日	福島県尾瀬地区植生復元調査実施	11月21・22日	令和元年度第1回冬期調査実施
26日	外来植物（ハルザキヤマガラシ）駆除作業実施（鳩待峠・津奈木）	26日	福島県尾瀬地区植生復元調査実施	27日	第3回尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会に出席
6月1日	ごみ持ち帰り運動実施	9月1日	ありがとう尾瀬巡回清掃活動実施	12月1日	第4次尾瀬総合学術調査団調査成果総括報告会開催
1日	連合群馬北部ブロックふれあいフェスティバル（片品村）に出展	3・4日	尾瀬サミット2019開催	13日	NHK「わたしの尾瀬」写真展（高崎展）及び表彰式開催
8日	林野庁による大江湿原シカ柵設置作業に参加	7～9日	第14回インタープリテーション研修開催	18日	尾瀬ガイド協会認定審査委員会・理事会開催
11日	尾瀬保護財団第23回理事会開催	19日	第4次尾瀬総合学術調査団拡大部局長会議開催	1月22日	第4回尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会に出席
15日	外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業実施（富士見下）	28日	ぐんま狩猟フェスティバル（高崎市）に出展	23日	NHK「わたしの尾瀬」写真展（前橋展）開催
22日	至仏山東面登山道整備（柵立て）実施	30日	ツキノワグマ生息状況等に係るミズナラ豊凶調査実施	23・24日	尾瀬キャラバン開催
22・23日	尾瀬ボランティア講座開催	10月16・17日	福島県尾瀬地区植生復元作業実施	2月5日	尾瀬キャラバン開催
23日	尾瀬自然解説ガイド研修会開催	17日	ツキノワグマ生息状況等に係るブナ豊凶調査実施	2月19日	尾瀬国立公園管理運営計画の検討に関する小委員会に出席
26日	尾瀬保護財団第10回評議員会開催	19日	林野庁による大江湿原シカ柵撤去作業に参加	3月9～11日	令和元年度第2回冬期調査実施
29日	外来植物（オオハンゴンソウ）駆除				

＊ 尾瀬のミニ観察 ＊ 《総集編》⑥

平成30年4月6日発行の第36号で惜しまれつつも最終回を迎えたフラワーエコロジストの田中肇さんによる人気コラム「尾瀬のミニ観察」。今回は総集編の第6回をお送りします。

＊ ニッコウキスゲ （花期 7月）

「花は1日花だ」と書いている図鑑や記事を時々見る。しかし「この花は2日間咲いている」と1995年に野原精一氏が報告しており、私も同じ結論を1999年に書いた。また写真家の猪狩貴史氏は連続写真で確認し2005年に提示している、のちである。

前回のヒツジグサの開花時刻の話と同様、自然界は先人が見落とした事実で満ちている。皆さんはその自然の只中で活動しており、発見のチャンスに取り囲まれているのだ。観察し発見しよう!!

第21回 vol.25 (2014.9) 掲載



＊ カワラハンノキ・雌の赤い穂 （花期 5月～6月）

尾瀬では雪が解けるとすぐ、カワラハンノキの花が咲く。枝先に短い紐のような雄の穂が1-3個つき、風で揺れると、黄色い花粉が煙のように飛び立っていく。

雌の穂は赤く長さ4-6mmで枝先に立ち、丸い苞と細い柱頭（雌しべの先端）が螺旋状に並んでいる。風媒花なので目立たなくて良いはずだが、雌の穂は真っ赤。この赤い色素が紫外線を吸収して、柱頭で受けた大切な花粉を、紫外線の害から守っているのだ。同じ理由で風媒花の柱頭は赤色や紫色のものが多い。探してみよう。

第22回 vol.26 (2015.2) 掲載



＊ レンゲツツジ （花期 6月～7月）

初夏、レンゲツツジの赤い花が咲く。漏斗形の花冠は半ばから5枚に分かれ、正面を向いた裂片にはチョウの好む濃赤色の斑点がある。

だがチョウを誘っても、その体を覆う鱗粉には花粉が付きにくい。花はそれを克服するため、花粉をネックレスのように細い糸で綴っている（写真白枠内）。花粉の一部でもチョウに付着したら、他の花粉も一緒に運ばせてしまおうという戦略なのだ。どのようなチョウが来るのか、作業の合間にでもちょっと観察しよう。

第23回 vol.27 (2015.8) 掲載



＊ ルイヨウボタン

葉がボタンに似ているとの名だが、似ているのは葉だけ。花は直径わずか15mmほど、しかも黄緑色で目立たないが、出合ったらルーペの出番だ。雄しべのすぐ後ろに、イチヨウの葉を小さくしたような蜜腺がある。

目立たないのに昆虫がくるのだろうかと思っていたら、あるときガガンボの一種が訪れ蜜を吸っていた。その頭部の大きさと、蜜腺と雄しべとの隙間がまったく同じで、ガガンボは蜜を吸えば必ず花粉を擦り付けられ、花粉を運ぶことになるのだ。

第24回 vol.28 (2015.12) 掲載



(フラワーエコロジスト 田中 肇)

寄付のお願い

—尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております—

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■ 所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。
※所得税、法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税、市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせください。

■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承ください。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

詳細は財団事務局（☎027-220-4431）にお問い合わせください。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様による寄付受納式が行われました。



1月30日(木)群馬県庁にて、あいおいニッセイ同和損害保険様による尾瀬保護財団への寄付受納式が行われました。あいおい様からは昨年度に引き続き100万円のご寄付をいただいております。当財団 山本一太理事長(群馬県知事)より御礼を申し上げさせていただきました。

「あいおい様では昨年10月、尾瀬ヶ原を中心に財団職員と清掃活動を行い、草紅葉に映える湿原の景色を楽しみながら巡回していただきました。積極的にボランティア活動に取り組んでおり、尾瀬の自然保護にお力添えいただいております。

特別協賛寄付者のご紹介

※2月29日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額 2,396,790 円



顧客と時代のニーズを追い求めて…
糸井商事株式会社

糸井商事株式会社
通算寄付額 4,800,000 円



環境貢献企業
エコ計画

日頃のご愛顧に感謝致します
皆様にご育てられてまもなく50周年
50th Anniversary

株式会社エコ計画
通算寄付額 4,000,000 円

群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社
通算寄付額 900,000 円

 福島銀行

株式会社福島銀行 通算寄付額 61,558,006 円

Beisia

株式会社ベイシア 通算寄付額 1,800,000 円

尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部として総額381万円余りをご寄付いただきました。

平成19年より今回が13回目のご寄付となります。

通算寄付総額 72,397,130 円

meiji

株式会社明治 通算寄付額 2,750,000 円

 Asset Management One

アセットマネジメント One 株式会社
通算寄付額 36,198,565 円

 群馬銀行

株式会社群馬銀行 通算寄付額 34,497,942 円

 第四銀行

株式会社第四銀行 通算寄付額 6,792,388 円

 第四北越証券
Daishi Hokuetsu Securities

第四北越証券株式会社
通算寄付額 1,852,385 円

協賛寄付者様のご紹介

※2月29日現在、五十音順、敬称略



クラブツーリズム株式会社
通算寄付額 750,000 円

一般財団法人群馬県警察厚生会
通算寄付額 900,000 円



スマーク伊勢崎
通算寄付額 500,000 円

 NICHINEN

株式会社ニチネン 通算寄付額 1,300,000 円

すべてを地域のために
東邦銀行

株式会社東邦銀行 通算寄付額 12,760,067 円

群馬県ビルメンテナンス協同組合 
通算寄付額 2,000,000 円



株式会社とりせん 通算寄付額 2,578,562 円



Minakami Kogen
Hotel 200

水上高原ホテル200
(水上高原リゾート株式会社)
通算寄付額 1,900,000 円

その他の寄付者のご紹介

※令和元年10月1日～令和2年1月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

尾瀬高原ホテル、関越交通(株)、群馬県電力関連産業労働組合総連合、佐藤 満、原 和也、(株)ヤマト



表紙の風景 ▶▶▶

尾瀬ヶ原、上から見るか横から見るか、どちらがお好みですか？
湿原の真ん中に立って感じる広さと、空から眺めるスケールの大きな箱庭感はまったく違った趣がありますね。

まだ厳しささえ感じさせる至仏山の姿と、少し寒々とした感じの尾瀬ヶ原が、明るい緑の木々に覆われる季節が今から待ち遠しいです。今年はこの景色のどこに行ってみようかという気持ちにさせてくれます。



撮影日：令和元年5月21日

イベント情報

第24回NHK「わたしの尾瀬」写真展

※予定は変更になる場合があります

《全て入場無料》

新潟市・中之口展

- 期間
4月7日(火)～4月19日(日)
午前9時～午後4時30分
- 会場
中之口先人館 ギャラリー
(新潟県新潟市西蒲区中之口363)
TEL:025-375-1112

胎内展

- 期間
9月19日(土)～9月27日(日)
- 会場
胎内市産業文化会館

見附展

- 期間
11月27日(金)～12月6日(日)
- 会場
みつけ市民ギャラリー
「ギャラリーみつけ」



尾瀬公式インスタグラムを開設しました。
本アカウントでは、尾瀬国立公園と周辺地域の多様な魅力を不定期でお届けしております。

アカウント名：Oze Official Instagram

ユーザー名：@discoveroze

URL：https://instagram.com/discoveroze?igshid=xkswzmb3vmrn

『友の会』コーナー

—「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。—

※加入・更新時期は年4回（5月・8月・11月・2月）です。

※8月1日からの加入・更新をご希望の方は
6月30日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッジ進呈（初回加入時のみ）、各種資料送付
- 財団機関誌：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料金割引：入浴料割引
対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
https://www.oze-fnd.or.jp

編集後記

新型コロナウイルスの流行により今までになく不安定な空気に包まれた3月となっています。いつもは非日常の空間である尾瀬ですが、こんなときも変わらず静かに春を待っているのでしょうか。新しい環境を迎える方も多いと思いますが、体調管理に気を配ってしっかり準備して乗り切っていきましょう。（塚越）



OZE Mobile ●緊急情報 ●お知らせ ●ライブ映像 など
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter @oze_info
尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します

